中日新聞
夕刊
発行所 中日新聞社
名古屋市中区三の丸一丁目6番1号
〒460-8511 電話 052(201)8811
2015年(平成27年)
8月14日(金)

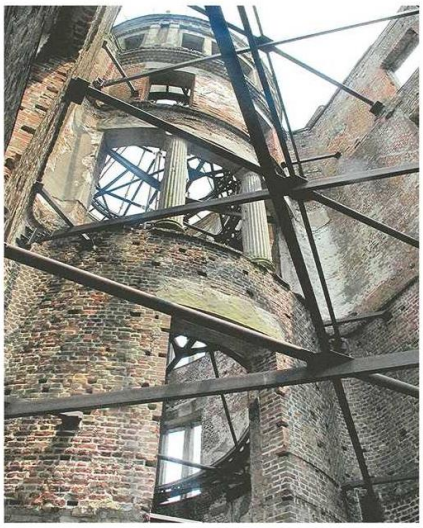
水処理
総合プラントメーカー
水のコトブキ
壽化工機株式会社
壽工業株式会社
名古屋 東京 群馬 福岡
壽ホールディングス株式会社
www.kotobuki-grp.com
スマホで便利
中日新聞プラス
登録のお問い合わせは
0120-664411

反戦の象徴 支える

築100年 原爆ドーム 耐震補強へ

広島市の世界遺産・原爆ドームが完成から百年を迎えた。原爆の惨禍を伝える「廃虚」をそのままの形で保存するために試行錯誤してきた広島市は年内にも、初めての耐震補強工事を始める。一方、市内に残る被爆建物は民間所有が多く、維持や老朽化による改修などの課題が待ち受ける。

（浅井俊典、写真も）



これまでの保存工事で内部を鉄骨で補強した原爆ドーム＝広島市中区で

広島市が耐震化の工法を決めたのは今年五月。最大震度6弱の地震を想定し、歩道に近い壁など崩落の危険がある三カ所に内側から鋼材を当てて壁を支える。

耐震化をめぐっては二〇〇七年から調査を進め、専門家による委員会に諮ってきた。専門家からは免震装置の設置など大規模な対策を求める意見もあったが、外観や犠牲者の尊厳を損なわないことを第一に考え、最小限の補強にとどめた。

原爆ドームはもともと保存するかどうかで意見の分かれた建物だった。市民の間には「見るたびに苦しく、つらくなる。取り壊してほしい」「惨禍の証人であり、残すべきだ」と賛否があり、市は存続を問う調査を被爆者に実施。一九六六（昭和四十一）年に永久保存を決定した経緯がある。

原爆ドーム　1915（大正4）年4月5日、地元の物産品を展示する広島県物産陳列館として建てられた。チェコ出身の建築家ヤン・レツルの設計。れんが造りの3階建てで、ドームのある中央部は5階建て。33年に広島県産業奨励館と改称した。45年8月6日、原爆がほぼ真上でさく裂し、建物は一瞬で大破、中にいた30人余りは全員即死したとされる。96年12月に世界遺産に登録された。

被爆の実態を示すために残された建物だからこそ、破壊された外観を損なわずに維持しなければならない。市はそれを原則として、これまでに実施した三度の保存工事でも最小限の鉄骨で内部を補強し、壁の亀裂に接着用樹脂を注入するなどの対策で終えている。

今回、耐震化工事をしても、地震や自然災害で壊れる可能性は残る。その場合は三次元測量データや記録写真を使い、「粉々にならない限り復元する」と市の担当者は話す。近年は東日本大震災で津波被害を受けた遺構を持つ東北地方の自治体から、保存法について問い合わせがあるという。

ただ、ドーム以外の被爆建物の保存には課題も多い。市は爆心地から五キロ圏内の被爆建物をリスト化しているが、登録件数は建て替えや再開発を理由に、この二十年で十四件減った。残る八十六件のうち、八割近くは民間の所有。市は補修工事費の四分の三を補助しても、保存の強制はできない。所有者にとっても、老朽化に伴う耐震化や維持管理費が重くのしかかっている。

きょうの紙面
戦後70年 文枝さんの思い 2
薄れる記憶 宙に浮く戦時中の年金 3
食べ鉄 「おれんじ食堂」楽しや 10
ファンの力 みやびな洋食器が復活 13